

平成 29 年 4 月 25 日 (火)
国土交通省関東地方整備局
東京港湾事務所

記者発表資料

平成 29 年度 東京港湾事務所の事業概要について

東京港湾事務所では、国際競争力強化の観点から、コンテナ取扱施設の能力不足を解消し、効率的な物流機能の維持や輸送コストを削減するため、国際コンテナ戦略港湾「京浜港」の一翼を担う東京港において、水深 16m の耐震強化岸壁を有するコンテナターミナル及び円滑な物流を確保する臨港道路南北線の整備を行います。

平成 29 年度の東京港湾事務所の主要事業は以下のとおりです。

東京港中央防波堤外側地区においては、水深 16m の耐震強化岸壁を整備し、基幹航路におけるコンテナ船の大型化への対応、大規模地震時に物流機能を維持し、国民生活と経済活動を支えます。

また、各開発に伴う将来交通需要の増大に対応するため、有明と中央防波堤地区を結ぶ主動線として、臨港道路南北線を整備し、都市機能が集積している臨海副都心周辺の渋滞緩和、物流コストの削減や輸送能力の向上を図ります。

東京港湾事務所ホームページ URL <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/tokyo/>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、
東京都庁記者クラブ、物流専門紙

問い合わせ先

国土交通省	関東地方整備局	東京港湾事務所
副所長	<small>たちばなゆうじ</small> 立花祐二	(内線 12)
工務課長	<small>わたなべたけし</small> 渡部武士	(内線 40)
TEL	03-5534-1360 (代表)	
FAX	03-5534-1368	

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾（京浜港）の目指す姿として、港湾の民営化と国際競争力強化に向けた3港（東京、川崎、横浜）一体となった施策の推進により、コンテナ港湾としての国際的な相対的地位低下の打開、アジア主要港への対峙を図ります。

このような中、今後も予想されるコンテナ貨物の増加とコンテナ船の大型化に対応するため、中央防波堤外側地区において効率的な運用に不可欠な連続バースによる高規格コンテナターミナル（Y2・Y3）を整備します。

平成29年度予定

○航路・泊地（水深16m）の浚渫工を実施します。

事業の効果

- コンテナ取扱施設の能力不足を解消するとともに、コンテナ貨物の増加に対応します。
- 国際海上コンテナ物流において基幹的な航路である欧州航路や北米航路に就航しているコンテナ船の大型化に対応し、国際競争力の向上を図ります。
- 本事業により耐震性を強化した岸壁を整備することにより、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の維持・確保に貢献できます。



事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う東京港において、中央防波堤地区の開発に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、有明と中央防波堤地区を結ぶ主動線として、臨港道路南北線を整備します。

平成29年度予定

○沈埋トンネルの製作、陸上トンネルの築造及び接続部（ニューマチックケーソン）の築造を実施中です。

事業の効果

- 臨港道路の交通分散が図られ、周辺道路も含めて走行時間の短縮及び走行経費の削減が図られます。
- 東京港周辺道路の渋滞が緩和し、物流コストの削減や安定的な輸送が可能となり、東京港を利用する荷主企業の国際競争力の向上に寄与します。
- 東京港の南北軸が2ルート確保され、リダンダンシーが向上することで、大規模補修や災害・事故時における安定的な物流・人流を確保できます。

